

(13) ご連絡事項

ご連絡事項は事務局からかかりつけ医に伝えたいこと、また会員患者からかかりつけ医への伝言、などを伝えるためのものである。①定期質問結果、②患者からの伝言、③検査結果の速報コメントリスト、④事務局からのお知らせ、により構成している。

特に定期質問の結果や伝言から、受診日以外の会員の身体状況や生活習慣を把握することが可能となる。また「事務局からのお知らせ」という形で、合併症発症の疑いなどを第三者からアラートを出すことは、かかりつけ医がその合併症を確認する検査、あるいは専門医受診を行うタイミングを支援することとなる。

= ご連絡事項 =

資料3:この用紙はご返送不要です			
ご連絡事項			
患者氏名	0000	(55) 才	性別 男
患者ID	00X	主治医名	九大太郎 先生
【①定期質問結果：異常の訴えがあったもののみ】 質問日時： 入会時質問結果			
〈関連項目〉	〈質問内容〉	〈回答〉	
神経障害	足先がじんじんとすることはありますか	ある	
手足の症状	足にたこやうおのめがありますか	ある	
大血管障害	歩いていて心くらはざが痛くなったことがありますか	ある	
【②患者様からの伝言】			
目がかすみます。洗眼するとよくなります。眼科の先生は涙の為だろうといわれています。			
【③速報コメントリスト】			
平成17年9月30日	血糖コントロールは改善してきています。次回は12月16日(金)にお待ちしております。		
平成17年9月12日	前回に比較して血糖コントロールは改善しています。風邪が流行っておりますのでご自愛ください。次回は9月30日(金)にお待ちしております。		
【④事務局からのお知らせ】			
10/20 〇〇様の新服バス(視機能なし・腎症なし・神経障害あり・足病変なし・動脈硬化なし)を作成いたしました。			

(14) 診療情報提供書原案

診療情報提供書原案は、専門医受診のタイミングにかかりつけ医に提供する。診療情報の内、カルナ事務局で把握可能な情報（基本情報、目的、糖尿病合併症の状態、処方）はあらかじめ埋めておく。

これにより、かかりつけ医は診療情報提供書には必要最低限の項目を記載すればよく手間を省くことができる。

＝ 診療情報提供書原案 ＝

診療情報提供書 医療機関記入欄	
平成 年 月 日	
医療機関記入欄	
担当医 眼科 殿	
所在地 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 医療機関名 九州大学病院 病態制御内科 TEL 092-642-1111 FAX 092-642-1111	
医師氏名 小林 邦久	
患者氏名	福岡 太郎 様 性別 男
現住所	福岡市東区馬出3-1-1 職業 無職
生年月日	昭和25年8月19日 年齢 55 歳
傷病名	2型糖尿病
紹介目的	たいへんお世話になります。 福岡太郎氏は上記疾患名にて当院外来受診中の患者さんです。糖尿病罹患歴は約8年で、現在下記処方にて別紙の通りのコントロール状況です。現在の眼症の状況について御高診お願い申し上げます。また糖尿病眼手帳をお持ちいただきますので併せて御記入のほどよろしくお願いたします。
既往歴	医療機関記入欄
症状経過および検査結果	医療機関記入欄
<症状経過> 現在の合併症状況をお知らせいたします。 <input type="checkbox"/> 腎症 2期 <input type="checkbox"/> 網膜症 なし <input type="checkbox"/> 神経障害 なし <input type="checkbox"/> 動脈硬化症 なし <input type="checkbox"/> 足病変 なし	
<検査結果>	検査結果履歴は、添付しております検査結果をご参照ください。
治療経過	現在の処方
5月20日 尿中アルブミン検査で異常値	<input type="checkbox"/> アマリール 1錠 (1 ・ 0 ・ 0)
6月12日 主治医判断でバリアンス	
7月20日 腎症2期と診断	
添付書類 なし ・ あり (検査の記録、その他)	

(15) 診療情報提供書 (コメントリスト)

診療情報提供書コメントリストは、専門医受診のタイミングで診療情報提供書原案を速やかに作成するために必要となるコメントの一覧である。専門医受診を眼科、腎臓・糖尿病科、歯科、検査受診の4種類に分類し、それぞれ①検査受診、②新規発症・悪化の疑い、③会員からの訴え、3パターンのコメントを作成した。

＝ 診療情報提供書 (コメントリスト) ＝

診療情報提供書コメントリスト				
別分類	ケース	タイミング	検査項目と検査方法	別分類
眼科	①- 検査受診(知覚なし/視野)	1ヶ月	眼底視力検査	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。視野検査は約半年で、現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。現在の視座の状況について御座りお聞き申し上げます。また御座り眼手術をお考えいただけますので併せて御記入のほどよろしくお聞きいたします。
	①- 検査受診(知覚なし/視野)	1ヶ月	眼底視力検査	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。〇年〇月〇日の検査で眼底には異常を認めておりません。現在の視座の状況について御座りお聞き申し上げます。また御座り眼手術をお考えいただけますので併せて御記入のほどよろしくお聞きいたします。
	①- 検査受診(知覚あり/視野)	2ヶ月	眼底視力検査	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。〇年〇月〇日の検査で眼底には異常を認めておりません。現在の視座の状況について御座りお聞き申し上げます。また御座り眼手術をお考えいただけますので併せて御記入のほどよろしくお聞きいたします。
	①- 検査受診(知覚あり/視野)	2ヶ月	眼底視力検査	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。〇年〇月〇日の検査で眼底には異常を認めておりません。現在の視座の状況について御座りお聞き申し上げます。また御座り眼手術をお考えいただけますので併せて御記入のほどよろしくお聞きいたします。
	②患者さん自身からの訴え(LE/VD)	随時	眼底視力検査	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。このLE/VDとの訴えがあり、御座りお聞きする次第です。現在までの経過は御座りお聞きください。以上よろしくお聞き申し上げます。
内科・経年	①検査受診(検査項目)	3期に入ったとき	目め	たいへんお世話になります。
	②検査項目の無い血球7ルブミン値異常 <small>※薬では専門医受診が必要。対応あり。</small>		目め	たいへんお世話になります。
	③検査項目の無い尿中尿白蛋白検査(尿検査)	随時	目め	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。視野検査は約半年で、現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。今回、眼底検査は異常を認め、腎臓4期を疑っております。御座りお聞き申し上げます。御座りお聞き申し上げます。今後の治療など御座りお聞き申し上げます。
	③検査項目の無い尿中尿白蛋白検査(尿検査)	随時	目め	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。〇年〇月〇日腎臓4期の診断を受けております。現在、尿白蛋白量は抑えている、治療中、あまり伸びていない、等々です。御座りお聞き申し上げます。御座りお聞き申し上げます。今後の治療など御座りお聞き申し上げます。
	④検査項目の無い血球7ルブミン値異常(尿検査)	随時	目め	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。今回、クレアチニン上昇を認め、腎臓4期を疑っております。御座りお聞き申し上げます。御座りお聞き申し上げます。今後の治療など御座りお聞き申し上げます。
	④検査項目の無い血球7ルブミン値異常(尿検査)	随時	目め	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。〇年〇月〇日腎臓4期の診断を受けております。現在、尿白蛋白量は抑えている、治療中、あまり伸びていない、等々です。御座りお聞き申し上げます。御座りお聞き申し上げます。今後の治療など御座りお聞き申し上げます。
	⑤患者さん自身からの訴え(LE/VD)	随時	目め	たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。このLE/VDとの訴えがあり、御座りお聞きする次第です。現在までの経過は御座りお聞きください。以上よろしくお聞き申し上げます。
歯科	①歯槽の炎症(口腔内検査)	2ヶ月		たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。視野検査は約半年で、現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。今回、歯槽炎を認めました。御座りお聞き申し上げます。御座りお聞き申し上げます。今後の治療など御座りお聞き申し上げます。
	②患者さん自身からの訴え(LE/VD)	随時		たいへんお世話になります。 〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。視野検査は約半年で、現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。このLE/VDとの訴えがあり、御座りお聞きする次第です。現在までの経過は御座りお聞きください。以上よろしくお聞き申し上げます。
検査受診	ガリドリ3で予備検査も、お聞きする	1ヶ月	目め	〇〇氏は上記疾患にて当院外来受診中の患者さんです。視野検査は約半年で、現在下投処方にて視野の通りのコントロール状況です。今回、眼底検査の一種として、眼底にて下投の検査をお見せしたいと存じます。また後遺症についてコメントもいたされたいと存じます。御座りお聞き申し上げます。また後遺症についてチェックしている項目の検査をお見せいたします。 〇〇眼底検査 〇〇眼底検査 〇〇眼底検査 〇〇眼底検査

(16) 速報

速報は、HbA1c や体重の検査結果を、結果が判明次第速やかに会員患者に知らせるものである。また、かかりつけ医（主治医）の顔写真とコメントも掲載する。

かかりつけ医の多くは検査会社に検査を外注しており、HbA1c の結果を 2 週間から 1 ヶ月遅れて知らされることは患者の現状（身体状態、努力状態）に即していない場合が多く、モチベーションの維持が難しい原因のひとつになっている。

よって速報は会員患者のモチベーション維持のために、またかかりつけ医と患者の信頼関係構築のために有益である。

= 速報 =

検査結果のお知らせ



会員氏名 九六 太郎 様
 会員番号 〇 番
 最新検査日 2005年1月14日

今回のHbA1cは **9.2** %でした。 前回から **0.2** %の変化です

主治医からのコメント

少しHbA1cの値が上がっています。
 今月はがんばりましょう。
 外食が増えていますか？間食しすぎないように気をつけてくださいね。

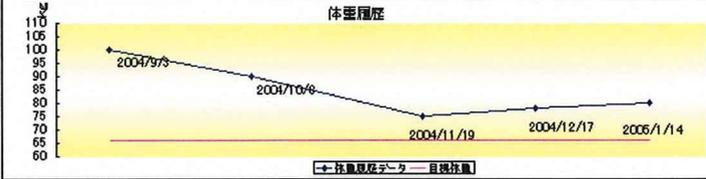
中島  中島直樹 先生

HbA1c 履歴



日付	2004年9月3日	2004年10月8日	2004年11月19日	2004年12月17日	2005年1月14日
履歴データ	5.4	5.2	5.5	5.0	5.2

体重履歴



日付	2004年9月3日	2004年10月8日	2004年11月19日	2004年12月17日	2005年1月14日
履歴データ	100.0	90.0	75.0	78.0	80.0

<ご連絡先>
 カルテプロジェクト事務局
 住所: 〒612-8582 福明市東区馬出3-1-1
 九州大学病院内 コラポス ラーゾンII-314
 TEL 092-642-8995 FAX 092-642-8996
 E-mail: came@med.kyusyu-u.ac.jp

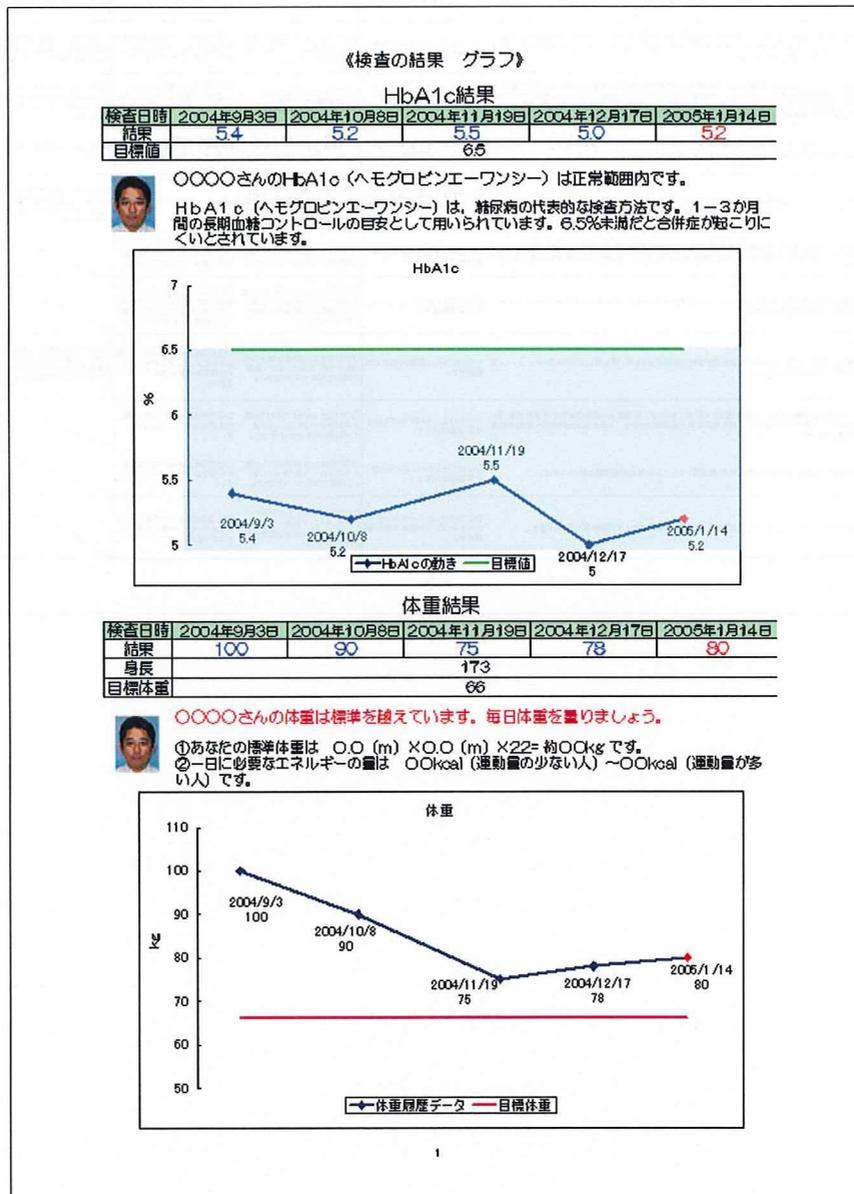
(18) 総括シート (12項目)

総括シートを報告書と一緒に1回/月、かかりつけ医および会員患者に送付する。総括シートは12項目の検査データ履歴およびグラフを示したものである。

12項目とは①HbA1c、②体重、③グルコース、④総コレステロール、⑤中性脂肪、⑥クレアチニン、⑦HDLコレステロール、⑧尿酸、⑨尿素窒素、⑩AST(GOT)、⑪ALP(GPT)、⑫γ-GTP、である。

また、それぞれにかかりつけ医の顔写真と今回のデータに関するコメントを書いており、会員患者とかかりつけ医の間の信頼関係の構築を助ける。

= 総括シート =



(19) 総括シートコメントリスト

総括シートコメントリストは、12項目の検査説明および、結果別のコメントを表示するためのコメント一覧である。コメントは①正常範囲、②上限を超えており悪化傾向、③上限を超えており改善傾向、④下限を超えており悪化傾向、⑤下限を超えておえり改善傾向の5パターンあり、検査結果が出るたびに、コメントを再選択する。

＝総括シートコメントリスト＝

項目	説明	正常範囲	上限を超えている		下限を超えている	
			悪化	改善	悪化	改善
HbA1c	HbA1c(ヘモグロビンエーワンシ)は、糖尿病の代表的な検査方法です。1-3か月間の血糖コントロールの目安として用いられています。HbA1c未満値と血糖値が結びついていわれています。	0000さんのHbA1c(ヘモグロビンエーワンシ)は正常範囲内です。	0000さんのHbA1c(ヘモグロビンエーワンシ)は以前と比較して高くなっています。悪化に気をつけてください。	0000さんのHbA1c(ヘモグロビンエーワンシ)は以前と比較して低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんのHbA1c(ヘモグロビンエーワンシ)は悪化と比べて感じています。主治医と相談してください。	
体重	①あなたの標準体重は 〇〇(m)×〇〇(m)×22=約〇〇kg です。 ②-10に必要エネルギーの量は 〇〇kcal(運動量の少ない人)~〇〇kcal(運動量が多い人)です。	0000さんの体重は標準です。このまま維持してください。	0000さんの体重は標準を超えています。毎日体重を量りましょう。	0000さんの体重は以前と比べて減少しています。今後悪化を予防してください。	0000さんの体重は標準と比べて少なくなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
中性脂肪	血液中の中性脂肪が増えれば動脈硬化(血管が硬くなって詰まる)や糖尿病を引き起こす可能性があります。自分の生活にあったエネルギーをお取り、お脂や甘いお菓子・糖質は控えめにし、食生活を見直してください。	0000さんの中性脂肪の値は正常範囲内です。	0000さんの中性脂肪の値は以前と比べて高くなっています。食生活を見直してください。	0000さんの中性脂肪の値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんの中性脂肪の値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
総コレステロール	総コレステロール検査は、動脈硬化や心臓病などを科定するために重要な検査です。上限は標準値、危険な値は総コレステロールが200mg/dl未満、LDLコレステロールが100mg/dl未満、HDLコレステロールが40mg/dl未満、LDLコレステロールが160mg/dl未満が目標とされています。	0000さんの総コレステロールの値は正常範囲内です。	0000さんの総コレステロールの値は以前と比べて高くなっています。悪化に気をつけてください。	0000さんの総コレステロールの値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんの総コレステロールの値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
グルコース(血糖)	グルコース(血糖)は血液中のブドウ糖がどのくらいあるかを示す値です。空腹時の値は100~130mg/dl未満、食後2時間の値は140~180mg/dl未満が目標とされています。	0000さんのグルコース(血糖)の値は正常範囲内です。	0000さんのグルコース(血糖)の値は以前と比べて高くなっています。悪化に気をつけてください。	0000さんのグルコース(血糖)の値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんのグルコース(血糖)の値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
HDL(善玉)コレステロール	HDLコレステロールは動脈硬化を予防する働きがあります。善玉コレステロールといわれています。HDLコレステロールが高いほど、動脈硬化になる可能性が低くなります。	0000さんのHDL(善玉)コレステロールの値は正常範囲内です。	0000さんのHDL(善玉)コレステロールの値は以前と比べて低くなっています。100mg/dl以下であれば改善を期待しましょう。	0000さんのHDL(善玉)コレステロールの値は以前と比べて高くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんのHDL(善玉)コレステロールの値は標準と比べて低くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
尿蛋白	血液中に含まれる蛋白を尿に排泄する働きがあります。尿蛋白の量は腎臓の機能が正常かどうかを知るための重要な指標となります。腎臓の機能が低下すると、血液中の尿蛋白の量が増えます。	0000さんの尿蛋白の値は正常範囲内です。	0000さんの尿蛋白の値は以前と比べて高くなっています。悪化に気をつけてください。	0000さんの尿蛋白の値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんの尿蛋白の値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
クレアチニン	腎臓の機能が低下すると、クレアチニンの濃度が高くなります。高い場合は、腎臓病を疑います。適切な治療を受ける必要があります。	0000さんのクレアチニンの値は正常範囲内です。	0000さんのクレアチニンの値は以前と比べて高くなっています。主治医と相談しながら治療を受けてください。	0000さんのクレアチニンの値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんのクレアチニンの値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
尿酸	尿酸は、食品の原料となるプリンを食生活や生活習慣によって作り出されます。高尿酸血症は、痛風や腎臓病の原因となります。適切な治療を受ける必要があります。	0000さんの尿酸の値は正常範囲内です。	0000さんの尿酸の値は以前と比べて高くなっています。食生活の見直しが必要です。	0000さんの尿酸の値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんの尿酸の値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
AST(GOT)	AST(GOT)は肝臓の障害、心臓疾患などで高値になります。肝臓から血液に放出される酵素です。肝臓の機能が低下すると、AST(GOT)の値が高くなります。	0000さんのAST(GOT)の値は正常範囲内です。	0000さんのAST(GOT)の値は以前と比べて高くなっています。悪化に気をつけてください。	0000さんのAST(GOT)の値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんのAST(GOT)の値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
ALT(GPT)	ALT(GPT)の値は急性肝炎・慢性肝炎・脂肪肝・アルコール性の肝臓障害を示します。	0000さんのALT(GPT)の値は正常範囲内です。	0000さんのALT(GPT)の値は以前と比べて高くなっています。悪化に気をつけてください。	0000さんのALT(GPT)の値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんのALT(GPT)の値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	
γ-GTP(γ-GT)	γ-GTP(γ-GT)の値はアルコール性肝臓障害や胆管障害を示します。	0000さんのγ-GTP(γ-GT)の値は正常範囲内です。	0000さんのγ-GTP(γ-GT)の値は以前と比べて高くなっています。悪化に気をつけてください。	0000さんのγ-GTP(γ-GT)の値は以前と比べて低くなっています。今後悪化を予防してください。	0000さんのγ-GTP(γ-GT)の値は標準と比べて高くなっています。適切な運動量を探る必要があります。	

(20) 患者教育用資料

患者教育用資料とは、糖尿病の病気や合併症など、必要な知識をかかりつけ医が教育するための資料である。教育支援シートのスケジュールに沿って患者の知識理解度を確認した際、理解目標時期を過ぎても理解できていない場合に、医療機関・会員患者双方に送付し、患者の理解度向上を図る。

＝患者教育用資料＝



3. 生活リズムと食習慣



血糖コントロールに成功している人から学ぶ

増やす



- ・野菜料理を一品食べてから食事を開始
- ・たっぷりの野菜を、時間をかけて食べる
- ・夕食控えめ、朝食しっかり！
- ・酒を減らし、ご飯を軽く1杯食べる
- ・お茶・水分を十分に（1.5～2リットル/日）

変える

- ・洋食→和食
- ・肉類中心→魚・野菜中心
- ・昼食→定食
- ・間食のお菓子→果実
- ・ジュースや炭酸・スポーツドリンク類→お茶・水
- ・ビール→低カロリー・ノンアルコール
- ・ドレッシング、マヨネーズ→ノンオイルタイプや酢醤油



減らす



- ・間食（例 1日1回→半分）
- ・外食（ご飯を遠慮に）
- ・アルコール（今より少なく）
- ・食事の全体量（多ければ1/3減す）
- ・おかず（1人分ずつ盛り切る）
- ・油料理（回数や1回量を少なく）
- ・ドレッシング・マヨネーズ（1回に小さじ1）

飲みすぎると危険！

- ・酔うことで、食事療法の意識が低下
- ・血糖コントロールが乱れやすい
- ・インスリン・血糖降下剤利用者→低血糖おこしやすい
- ・肝臓の代謝異常で、高脂血症に
- ・どのアルコールもエネルギーがある→太る原因
- ・ビタミン、ミネラルを消耗する



→ 必ず主治医に相談 多くても お酒1合・ビール500ml・換算130ml
どれか1つ（200kcal）まで

1. 3 当プロジェクトにおける研究全体像

本研究は、糖尿病・高血圧症・脂質異常症・肥満といった慢性疾患を対象に疾病管理研究を行ったが、広い意味では疾病管理はライフコース管理であり、子育て・労働安全衛生管理・メンタル・慢性疾患・リハビリ・介護といったライフステージに応じたサービスを提供するものである。

参考として、疾病管理の全体像を次ページに示している。今後も疾病管理の発展的研究を実施していきたい。



カルナ研究全体計画(概要)

【方針】

ライフフォース管理のための疾病管理技術の確立と、疾病管理提供のための社会システムモデルの実証により、保健・医療資源を最適に分配し、保健・医療の質向上とともに医療機関を含むそれに関わる従事者が適正な報酬を得られる仕組みを提案・モデル実証する。

【1. 本計画におけるライフフォース管理の定義】

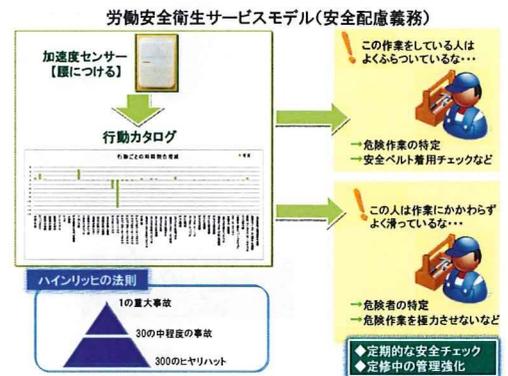
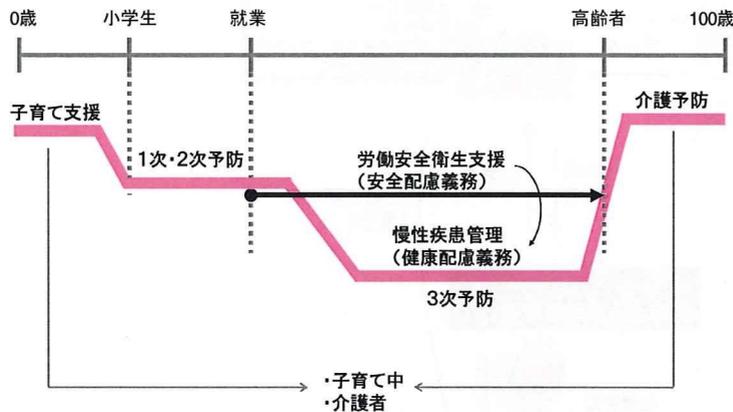
本計画では、慢性疾患（メタボリック症候群・糖尿病・高血圧症・脂質異常症・心疾患・脳卒中等のリハビリ・肝疾患）の予防・早期発見早期治療・悪化防止の1次から3次の緩和ケアまでを含めた慢性疾患管理支援、事業所における鬱に代表されるメンタルケア・作業事故防止などの労働安全衛生管理支援、子供や高齢者の健康・安全を遠隔で親が確認することができる子育て支援、介護者支援をライフフォース管理とする。

1. 1 慢性疾患管理支援（疾病管理）
1. 2 労働安全衛生管理支援
1. 3 子育て支援
1. 4 介護者支援

*上記1.1~1.4のサービスを実現するには、3.1PHR構築が必要であるが、PHR構築過程において副次的に以下のサービス提供も可能となる。

（副次的サービス）クラウドサービス：

検査データ配信サービス（L-Net）、健診システム共同利用サービス、医療機関向けレセプト代行入力・返戻チェックサービス、自己管理が重要なサービスの指導ツール（面談ナビゲーションシステム・指導動画）



【2. 本計画における疾病管理技術の定義】

本計画では、ライフフォース管理1.1~1.4を実現する技術が疾病管理技術という位置づけであり、『サービスプロセスの標準化』を目標とする。サービスプロセスの標準化手法は、どのようなデータが必要かという取得情報の確定、取得情報をどのようなロジックで判断するかという判定ロジックの確定、判定ロジックから必然的に導かれる提供サービス内容の確定に分類され、糖尿病疾病管理サービスや、子育て支援サービスなどサービスごとに構築される。

この取得情報と判定ロジック、サービス内容を一覧化する手法は“アウトカムファイル”と呼ばれる、アウトカム（目的：効果の追跡・評価）→アセスメント（評価：取得情報からの判断ロジック）→タスク（作業項目：サービス内容）で構成される3重構造の情報群として管理していく。本計画では、多くの施設（医療福祉施設・事業所・家庭）でのサービスプロセスを標準化することを最終目標とするが、当面の目標としてはアウトカムファイルによる標準化手法の確立を目指す。

また、情報取得方法としてデータ連携（社会システム：PHR）・センサー・地デジ/遠隔画像を、判定ロジック方法としてゲノム解析を研究対象とする。特に判定ロジックはデータの蓄積とともに新たな知見が発見され、スパイラル的に精度が向上することが期待されることから、グリッド・コンピュータリングを用いた解析研究を実施する。

提供サービス内容の標準化として、判定ロジックから必然的に導かれるサービス内容において、自己管理が重要な内容（生活習慣改善や安全意識など）の場合は“本人に気付き”を与えるコーチング理論を活用する。

2. 1 取得情報の標準化
 - (1) データ連携手法の確立
 - (2) コールセンターを使った情報取得手法の確立
 - (3) センサーを使った情報取得手法の確立
 - (4) 地デジ/遠隔画像を使った情報取得手法の確立
2. 2 判定ロジック確定手法の標準化
 - (1) 取得情報から導かれる判定ロジックの確立
 - (2) ゲノム解析を使った判定ロジックの確立
 - (3) グリッド・コンピュータリングを用いた判定ロジックの精緻化手法の確立
2. 3 提供サービス内容の標準化
 - (1) 判断ロジックとサービス内容の組み合わせ手法確立
 - (2) 自己管理が重要なサービス内容におけるコーチング理論の応用手法確立
2. 4 効果の追跡・評価の標準化
 - (1) 目的にあった効果が得られているかの個人ごと追跡・評価方法の確立
 - (2) 目的にあった効果が得られているかの集団ごと追跡・評価方法の確立

＝具体例（糖尿病疾病管理サービス）＝

・医療機関からのデータ連携による検査データ（HbA1c悪化）、コールセンターでの聞き取り（網膜症の兆候）、センサーからの生活状況（運動量低下・体重増加・血圧上昇）から判断ロジックにより網膜症の疑いと判定、提供サービスとして主治医へ紹介状原案およびこれまでの経緯を提供し運動指導を実施、眼科にて眼底検査を行う。運動指導においてはナビゲーションシステムを用い、現在の生活習慣をセンサーからの情報で客観的に振り返り、一駅前で降りて歩くなど行動変容可能なものを自分自身で見つける。

【3. 社会システムモデルの実証】

本計画では、2.1(1)にある多施設間でのデータ連携を行うための技術的な検討と、その技術が継続的に維持費用捻出可能なモデルを提案する。

技術面では、検査データ（センサーデータを含む数値データ）、問診データ（自覚症状などテキストデータ）、実績データ（レセプトデータや検査の実施の有無など0、1のデータ）、判断情報（上記3データを組み合わせることで判定される組み合わせ情報）の4種類が連携の対象となる。これらのデータは医療機関・保健者・企業・個人など多施設の散在していることから、連携に際しては一定のルールが必要となる。このルールは、現在の日本の医療情報通信規約として唯一稼働している“特定健診・保健指導XML”を活用する。

このような技術を継続可能な社会システムとするには、

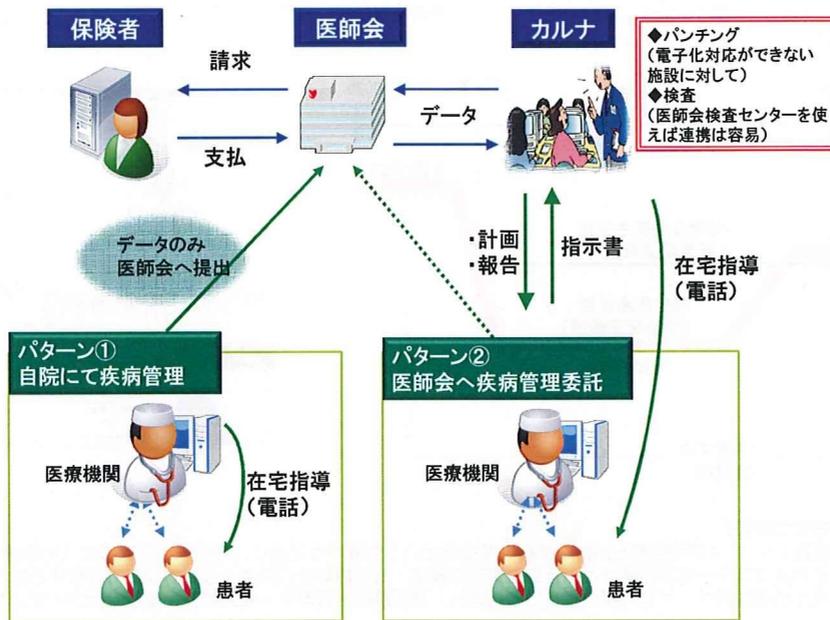
- ①本来、データの所有者である本人がデータ連携（集約）によりなんらかの利益があること
- ②現在、散在しているデータをそれぞれ保有している組織（医療機関・保健者・企業）がデータを渡す義務があること
- ③集約されたデータを管理・運用する組織があること

が重要となる。これらはサービス内容によって必要なデータの種類・連携先が異なることから、それぞれのサービスごとの検討が必要であるが、特に医療情報を医療機関・保健者から取得するには法制度上の背景が必要である。

- 3. 1 PHRデータベースの構築
- 3. 2 各種サービスごとの連携データ項目の確立（本研究、医療情報学会と各学会との共同）
- 3. 3 医師会事業としての疾病管理の確立

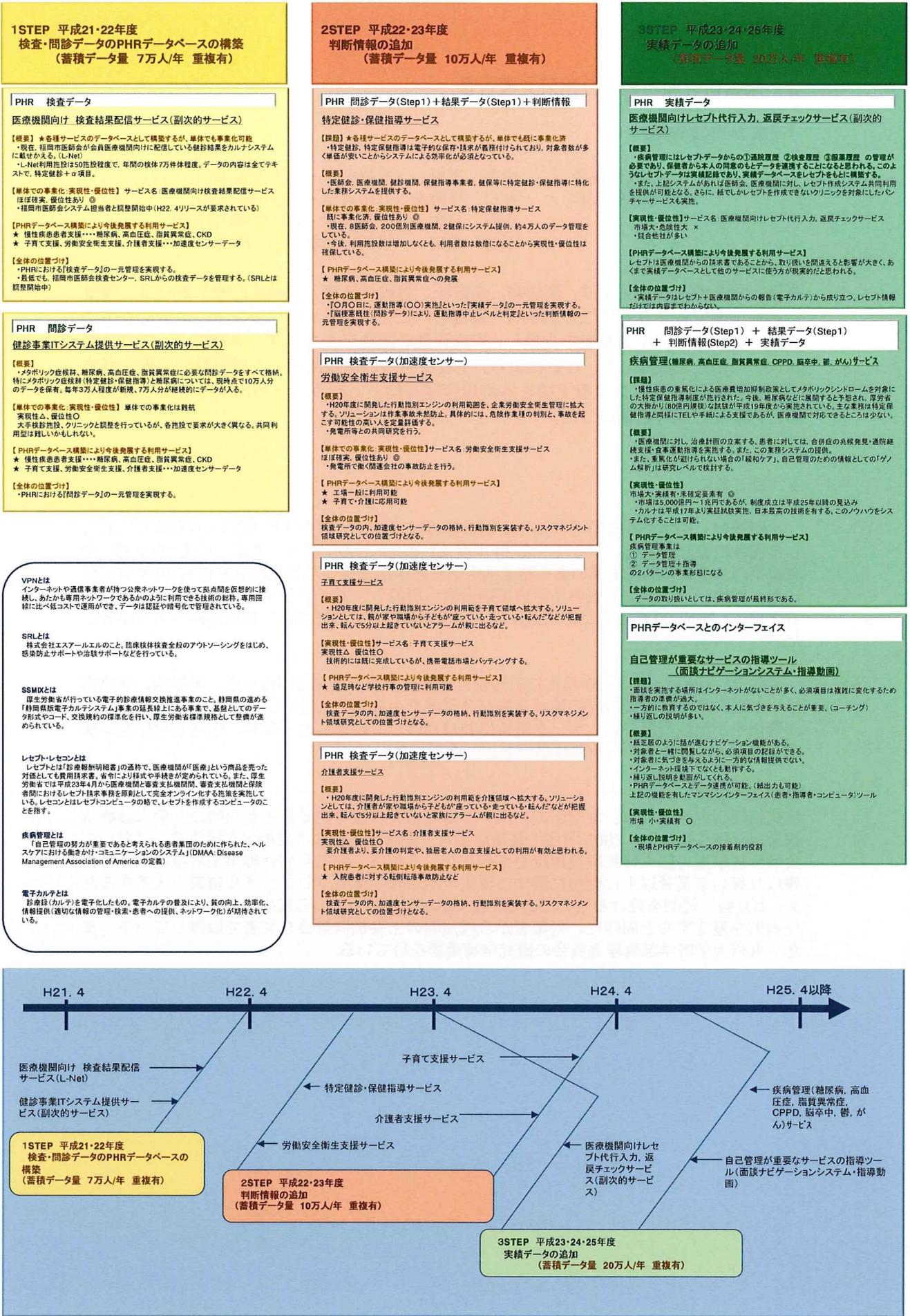
＝具休例＝

主治医と相談した結果、データの集約を行い、他医療施設での検査結果、生活習慣状況、自覚症状等を総合的にみて治療を実施した方がよいと患者が納得した場合、主治医はデータの集約化を医師会を通じて疾病管理会社に指示、疾病管理会社は保健者からレセプトデータを受領して通院履歴と検査履歴、服薬履歴を、医療機関からカルテ情報として2.1で定義した必要情報を格納し、PHRを構築、食事指導・運動指導・重篤化防止等の疾病管理サービスを提供する。この場合、データ管理と疾病管理でそれぞれ診療報酬が発生することで維持費用をまかなう。（調剤薬局と同じ仕組み）



PHR事業(喜連川プロジェクトスケジュール:個人データ管理と医療機関・患者へのサポート)

PHRとは・・・『検査データ』『問診データ』『実績データ』『判断情報』の4項目から成り立つ。



VPNとは
インターネットや通信事業者が持つ公衆ネットワークを使って拠点間を仮想的に接続し、あたかも専用ネットワークであるかのように利用できる技術の総称。専用回線に比べコストで運用ができ、データは認証や暗号化で管理されている。

SRILとは
株式会社エスアールエルのこと。臨床検体検査全般のアウトソーシングをはじめ、感染防止サポートや治験サポートなどを行っている。

SSMIXとは
厚生労働省が行っている電子の診療情報交換推進事業のこと。静岡県を進める「静岡県版電子カルテシステム」事業の延長線上にある事業で、基盤としてのデータ形式やコード、交換規約の標準化を行い、厚生労働省標準規格として整備が進められている。

レセプト・レセコンとは
レセプトとは「診療報酬明細書」の通称で、医療機関が「医療者」として商品を買った対価として費用請求書。省令により様式や手続が定められている。また、厚生労働省では平成23年4月から医療機関と審査支払機関間、審査支払機関と保険者間におけるレセプト請求事務を原則として完全オンライン化する施策を実施している。レセコンとはレセプトコンピュータの略で、レセプトを作成するコンピュータのことを指す。

疾病管理とは
「自己管理の努力が重要であると考えられる患者集団のために作られた、ヘルスケアにおける働きかけ(コミュニケーション)のシステム」(DMAA: Disease Management Association of America の定義)

電子カルテとは
診療録(カルテ)を電子化したもの。電子カルテの普及により、質の向上、効率化、情報提供(適切な情報の管理・検索・患者への提供、ネットワーク化)が期待されている。

Naoki Nakashima, MD, PhD

Associate Professor

Department of Medical Informatics

Kyushu University Hospital

3-1-1 Maidashi, Higashi-ku, Fukuoka 812-8582, JAPAN

TEL 092-642-5881

FAX 092-642-5889

mail to: nnaoki@info.med.kyushu-u.ac.jp

March, 2010